

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191100052		
法人名	株式会社 総合福祉ひまわり		
事業所名	グループホーム市之倉ひまわり		
所在地	多治見市市之倉町13丁目83番地の353		
自己評価作成日	平成31年1月31日	評価結果市町村受理日	平成31年4月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyouvoCd=2191100052-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成31年2月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気作りを大切にしている。ご本人やご家族とスタッフが極力近い距離で居られるようご家族との連携を密にしている。地域の行事や隣の幼稚園と様々なイベントで園児との交流を図っている。又毎月行われるレクリエーションや季節ごとのイベントにも力を入れ楽しみを作りいきとした生活をいただけるように心がけている。主治医との連携は強く看取り介護にも対応し、その人らしく最期を迎えられるようご家族、主治医、職員が一丸となりご本人を支えていけるよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人は、幼老一体の総合福祉施設として、グループホーム、小規模多機能型居宅介護、デイサービスを運営している。ホームは小高い丘の団地の一角に建ち、小鳥のさえずりや園児の明るい笑い声がこだまする環境である。利用者が、地域住民や園児と日常的に触れ合えるよう、様々な機会を設け、交流を図っている。また、地域住民も、福祉施設を理解する拠点として、ホームで開催する認知症カフェに参加している。管理者は、職員の資格取得を支援し、外部研修も受講できる機会を設けてモチベーションを上げながら、働きやすい職場環境作りに努め、より良い利用者サービスの提供につなげている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	共有出来るように努力している。職員会議で確認し職員は日常の支援の中でお互いが理念にかなった支援をしているかどうか指摘もしている。	理念は職員の目につきやすい場所に掲示し、日々、ケアを振り返りながら実践している。利用者の尊厳を守り、共同生活の中で、自己決定できるように支援し、笑顔の絶えない暮らしの支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事、夏祭り、もちつき大会に職員、利用者様参加、地域との交流を継続している。町内会に入り地域の清掃活動に参加している。昨年から認知症カフェを開催し地域の住民が集ってきている。	町内会からの回覧を通じて、地域行事の情報を得、祭りや餅つき大会など、利用者と共に参加している。防災訓練や清掃活動等、定期的な行事にも参加し、地域の一員として交流している。ひまわりカフェには、民生委員や多くの近隣住民が訪れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	スタッフや入居者の募集の広告に介護にお困りの方などいつでも相談にのりますと記載し気軽に相談できる場を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用状況や人員状況、事故等を報告し、要望等を聞いている。いただいたご意見をサービス向上に生かす努力をしている。地域での問題について議題にあがる事もあり問題解決につながることもある。参加者の協力が強く意見交換が活発にできている。	運営推進会議は、行政、町内会長、民生委員、福祉委員等、有識者が参加し隔月に開催をしている。行事報告や今後の取り組みなど意見交換をしている。地域高齢者の実情についても話し合い、家族の意見を踏まえながら、理解を深める場にもなっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加していただいたり、困った時は常に積極的に相談して協力関係を築くよう取り組んでいる。	行政担当者に、運営推進会議の中で、介護保険の動向や地域高齢者の実情について説明を受け、意見交換している。困難事例があれば、直接、窓口に向いて現場の実情を報告し、意見交換を行いながら協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間、職員が一人になるとき以外は、施錠は基本的にはしていない。マニュアルも作成しており理解を深める努力をしている。拘束においては、家族や施設で慎重に話し合い、代替えケアに取り組むようにしている。職員は拘束の研修に参加し、会議にて勉強会を行い、拘束廃止委員会を設置している。	全職員が身体拘束について学び、拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。止むを得ず拘束が必要な場合は、家族の同意を得て、職員間で話し合いながら、最小限に留める工夫をしている。身体拘束廃止委員会を設置し、定期的な研修を行い、全職員で共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	どのような行動、言動が虐待に相当するかを会議の中でスタッフにも説明し虐待に対する意識を高めている。職員同士でお互いに気づいたことは注意しあい、話し合いをしながら対応の仕方を考え実践している。		

岐阜県 グループホーム市之倉ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、ケアマネが研修に参加して活用に備えている。以前、日常生活自立支援事業を利用していた利用者様がいて社会福祉協議会、市の高齢福祉課と連携し支援した経験もある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	丁寧に説明し起こりうるリスク、重度化についての対応等について詳しく説明している。不安な事がないか等具体的にこちらから尋ね納得していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様、ご家族の意見は運営会議でお話いただいたり皆さまの声、毎月のひまわりだよりに意見を求める欄を作っている。特に意見はないが面会時等にこちらから意見を聞き出せるようにしている。又意見箱も設置している。	利用者の日常の様子、行事の際の写真等を掲載した「ひまわり通信」には、担当者がコメントを書き、家族の意見や要望を求める欄も設けて送っている。家族からは喜びの声が届いている。また、家族の来訪時にも、時間をかけてコミュニケーションを図るよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で意見を聞くようにしている。その内容を施設会議、又直接社長、施設長に職員の意見等を伝えて反映できるようにしている。	管理者も日常的に現場に入り、職員の意見や要望を聞き、出来ることから迅速に対応している。それらの意見や要望は、法人の会議にも上げ、運営に反映させている。代表・管理者は人材確保のため、福利厚生の実施にも取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が現場の中で個々の勤務状況を把握して代表者等に伝えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得の情報を提供したり、研修にも積極的に参加している。介護福祉士や介護支援専門員の資格取得に積極的である。又、看護の道に進む職員も出ている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	多治見市が開催するサービス事業者の交流会に参加し他の事業者との交流を続けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご自分から思いを伝えることができる方は少ないのでご家族から聞き取るようにしている。又普段の関わりの中からくみ取るようにしている。入居時、契約時に要望等を聞き取るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の懇談で、家族の思いを聞き面会時や電話等で常に連絡しあい良い関係を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の懇談で、支援を見極め対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と一緒に食器を洗ったり、自分で出来ることはしていただき、お互い協力しながら生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事の参加をお願いしたり常にご家族と連携を取り、ご家族の立場を理解し良い関係を築いている。行事に参加して下さるご家族が増えている。月1回のひまわり便りを郵送して情報を共有している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が訪ねて来られたり電話がかかってきて本人とお話される事もある。	各事業所合同での交流も多く、馴染みの関係が継続できる環境にある。来訪者が利用者やゆっくり過ごすことのできる場を提供し、一緒に写真を撮って、それを部屋に飾っている。また、職員と買い物に行った際には、利用者の自宅や馴染みの店へ寄ることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	合同レクを企画したり、利用者同士が会話出来る機会を作るようにしている。会話が困難な利用者様に対してはスタッフが会話をつなげ関わりが持てるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても関わりを大切にしている。退去された方の様子を見に行く事がある。看取りを実施していて、亡くなられた方のご家族がひまわりが懐かしくて職員に会いに来てくださっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人から希望が聞けない方は職員の毎日の関わりの中から声掛けし把握に努め、本人本位のケアが出来るように努めている。	職員は、時間をかけて利用者与会話し、思いや希望を把握している。困難な場合は、家族からの情報や、本人のしぐさ、表情から思いを汲み取るよう努めている。入浴支援や個別対応等で知り得た新たな情報も、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人家族の思いを聞き、職員会議で意見を交換し介護計画を作成している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の身体状況や生活のリズムを理解し本人の行動、言動、表情から現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の思いを聞き本人の思いを今までの生活、生い立ちから聞き出し、担当の職員を中心に会議で意見を交換し介護計画を見直し現状に合った計画を作成している。	サービス担当者会議は、家族参加で行っているが、家族が出席が出来ない場合は、電話や手紙で意見交換をしている。担当職員を中心に、利用者の状態を確認し、医師や関係者と意見交換しながら、本人が健康的に暮らせる介護計画作りを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づき等は介護記録に記録している。又申し送りノートに細かく記入し、朝礼などで繰り返し話し合い、意見交換し実践や介護計画の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じ、通院など必要に応じて支援している。又外出支援は個別で、希望により昼食の外食も個別で支援し利用者は楽しみにしている。		

岐阜県 グループホーム市之倉ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民間の訪問理美容の提供、演劇、大正琴の演奏、ピアノ演奏などボランティアの協力で楽しい時間を過ごしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、ご家族の希望を聞き、安心、適切に医療が受けられるように支援。現在、全員往診にて対応、内科以外基本はご家族だがご家族、都合悪い場合のみ看護師対応で付き添い受診。結果等その都度ご家族に報告している。	入居時に、かかりつけ医について、事業所の方針を説明し、利用者・家族が選択している。継続の利用者が多く、医師、看護師の往診を受けている。内科以外の診察は原則、家族同行としているが、場合によっては、事業所の看護師が付き添い、適切な医療を受けられるよう支援し、情報を家族と共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師と常に連携して対応している。急変時も24時間体制で対応している。又訪問看護師との連携も出来て適切な受診、看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	情報を提供し、時々面会、状態を把握、家族とも連携、退院後に安心して暮らせるようにしている。又病院の相談員とも情報交換し、主治医に直接聞くこともできる。退院時にはカンファレンスを開催し安心して生活できるように支援している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化については入居時に説明してありますが、終末期のケアについてはご家族の思いに添える24時間体制の医療連携を整え重度化指針の作成をしている。	重度化や終末期の対応については、契約時に方針を説明し同意を得ている。状態の変化に伴い、関係者が十分に話し合いを行っている。終末期は本人・家族の希望を受け入れ、職員は研修を重ねながら、医師・看護師との連携のもと、看取り支援にも取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の行うAED操作、人工呼吸蘇生訓練を実施している。今後も定期的に訓練、研修を行う予定です。事務所にマニュアルが提示してあり職員がいつでも目が通せるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、年2回利用者と共に消防署の協力で訓練を行っている。昨年より、町内会に入会し地域の活動に参加する機会も増えて来ているので、以前のように地域の人と一緒に訓練し協力体制を築くように心がける。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者のプライバシーを損なわない対応を心がけている。職員会議のうちに職員の意識向上を図っている。人格を汚す対応をした職員には現場で管理者、リーダーが注意するようにしている。	利用者一人ひとりの尊厳を守り、プライバシーを損ねない声かけや対応を実践している。特に、排泄支援や入浴介助については、全職員で適切なケア方法を話し合い、共有しながら支援に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自由に選択出来るような対応を心掛けている。言葉で意思を表せない利用者様には表情やふとした行動から、くみ取って対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のだいたいの流れはあるが体調や気分によってその方のペースに合わせて入浴時間の変更や日を変えている。又ご本人の要望を聞き出し極力要望に沿った対応を可能な限り対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で選べる方は自分で選択するように支援しているが季節に合った衣服を選べない事も多いため付き添い一緒に決めながら対応している。又白髪を気にされる方、パーマをかけたい方等家族に相談しながら対応している。時々化粧等するときもある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、食事の後片付けを利用者様に手伝ってもらっている。基本はメニューが決まっているが時々利用者の好物を聞き一緒にメニューを決めることもある。誕生日にその利用者様の好きな食事を聞き提供している。外食も定期的実施。	利用者の状態に合わせた形態で、提供している。食事の準備や後片付けなど、利用者もできることに関わっている。行事や季節に応じて、流しそうめん、サツマイモ料理、おやつ作りなど、楽しみながら職員と共に行っている。誕生日の特別食や外食も、利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調と一日の食事、水分摂取量を把握している。利用者の状態に合わせて食べやすい食事形態で提供している。水分をあまり摂られない利用者様には、一日通して確保できるように少しずつ根気よく対応している。水分摂取の量を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事の口腔ケアの手伝いを行っている。入れ歯の方は、自分で洗われた後、職員が確認し清潔保持している。夜間はポリドントにつけ消毒している。		

岐阜県 グループホーム市之倉ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を作成し一人ひとりの排泄習慣、リズムを掴み、おむつ使用を減らす努力をしている。入院しおむつになった方に対してはおむつを外す事が出来てトイレで出来るようになってきている方もいる。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、声掛けとトイレ誘導を行い、トイレでの排泄が習慣になるよう支援している。こまめな支援により、入院でおむつ使用になった利用者も、再度、トイレでの排泄が出来るようになり、本人の自信につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝体操をしたり、散歩に出かけたり、水分補給を充分するように取り組んでいます。下剤を使用している方には個々に応じた使用量、頻度で使用している。ヤクルトを毎日1本飲んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本は曜日を固定しているがその方の体調や気分により入れ替えている。その方の希望に添えるように支援している。	入浴は週3回としているが、利用者の希望に柔軟に対応している。入浴中は利用者とのコミュニケーションの場でもあり、職員は、目配り・気配りをしながら、一人ひとりの状態に適した入浴支援を行っている。	利用者の重度化を視野に入れ、安心・安全な入浴支援の工夫について、今後も検討されることを期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの身体の状態に合わせて、休息していただいている。本人が個々の体調に合わせて自ら休息されている方もいる。職員がその日の利用者様の様態をみて休息をとってもらうようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報は記録と一緒に職員が確認出来るようにし、看護師とも連携し支援している。服薬管理表を作成し複数人で確認、誤薬事故が起きないように努めている。症状の変化があれば看護師に連絡、主治医との連携で支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人ひとりが何が出来るかを把握しその方にあった事を生活の中で役割を持ち参加してもらい、新しく入居された方には今までやられていた事を続けて出来るように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候に応じて散歩に出かけたり、買い物に出かけたりしている。又家族の協力も得て外出の機会を設けていただいている。家族の協力の有無で支援に差が出ている。又個別の支援で2、3人で出掛け喫茶店に行ったり、外食支援もしている。	利用者の健康状態や天候を見ながら、散歩に出かけている。併設の幼稚園児と、庭で交流することも利用者にとって、楽しいひと時である。グループで喫茶店、買い物に出かけている。年間行事では、花見、紅葉狩りなどに出かけている。	

岐阜県 グループホーム市之倉ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	1名の方が所持しているが今のところ使っていない。外出支援したときに使えるように支援していく。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話で家族と連絡取り合ったり、絵葉書や手紙を出して近況を知らせる方もある。年賀状は毎年だしている。書けない方は職員で対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所、居間兼食堂は1フロアーになっている。フロアーの一角に休むスペースが用意しており見守り必要な方は日中フロアーのベッドで休む事もある。壁には利用者様の作品がはってあり季節感のあるフロアーになっている。利用者様と職員の共同の作品も飾ってある。	共用空間は清潔で明るく、車椅子の利用者が安全に往来ができる広さがあり、利用者がゆったりとくつろぐことができる。利用者が共同で作った桜の壁画、ひまわり、その年の干支などが掲示されている。空気清浄器を備え、適切な空調管理も行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に椅子を配置して、外を眺めながら会話出来るスペースを作り、居間にソファを置きゆっくり出来るスペースがある。隣の幼稚園の園児の遊んでいる姿を見ることが出来る利用者の楽しみの空間になっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅での環境に近づけるようにしている。又ご本人が生活していく上で居心地よく過ごせるような環境づくりをご本人、ご家族と相談しながら作り上げている。	利用者が自分の部屋が分かるよう、表札に工夫をしている。職員が、家族が訪問した際に、利用者と一緒に写真を撮り、それを飾っている。また、使い慣れた小物や手作り作品を飾り、居心地よく過ごせる居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	状況に合わせた環境整備に努めている。危険が生じた場合は、本人の不安材料を取り除けるように職員や利用者様と話し合っている。		